

Symmetra³ LX 電気設備取り付けガイド タワー型およびラックマウント型 UPS

Symmetra LX UPS で使用できるモデル：

200 V, 48 kVA 200 V, 416 kVA
208/240 V, 48 kVA 208/240 V, 4-16 kVA

安全および取り付けに関する重要な注意事項

このマニュアルでは、Symmetra LXタワー型およびラックマウント型UPSの配線および接続について説明しています。

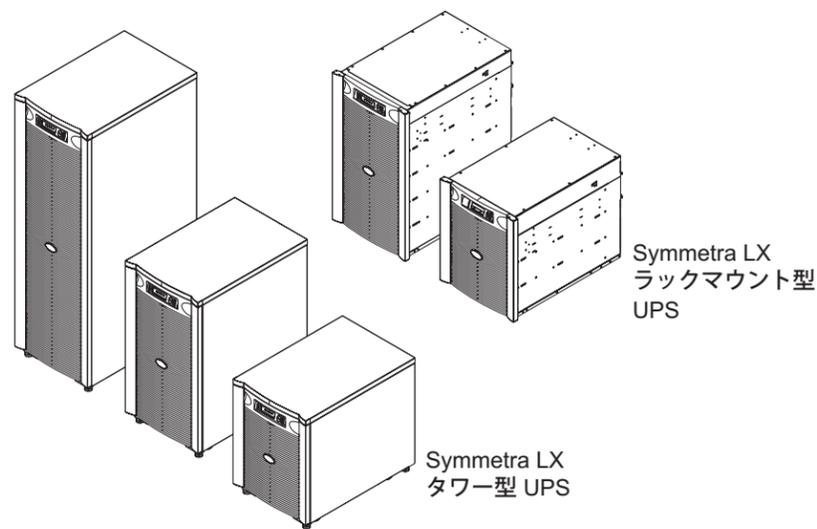
電源の取り扱いと電線の配線は、必ず資格を持った技術者が行い、その地域と国の法律に従ってください。

設置、操作およびメンテナンスに関するその他の重要な説明については、お使いのシステムに付属の製品マニュアルを参照してください。

次の図に代表的な例を示します。コンポーネントおよびオプションのAPC機器を含め、実際のSymmetra LXの構成内容は本ガイドに示すモデルと異なる場合があります。

Entire contents copyright 2006 by American Power Conversion Corporation. All rights reserved. 本書の全部または一部を無断で複製することは禁じられています。

APC、APCロゴ、PowerChute、InfraStruXure、Smart-UPSおよびSymmetraは、American Power Conversion Corporationの登録商標です。その他の商標は各社に帰属します。



電気設備の取り付け



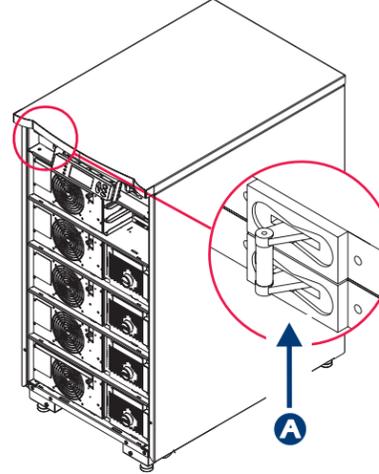
感電

『Symmetra LX安全に関する注意事項および一般的な注意事項ガイド』に記載された安全に関する注意事項にすべて目を通して内容を理解し、遵守してください。安全に関する注意事項や警告を無視すると、機器の破損や人体への重大な傷害、死亡事故に至る可能性があります。

① 取り付け前にチェックリストに従って確認を行う

電気設備の取り付けを始める前に、次の手順を実行してください。

- 1.1 UPSに電力を供給するサーキットブレーキがOFFの位置になっていることを確認します。
- 1.2 UPSの入力側サーキットブレーカ **A** がOFFの位置にあることを確認



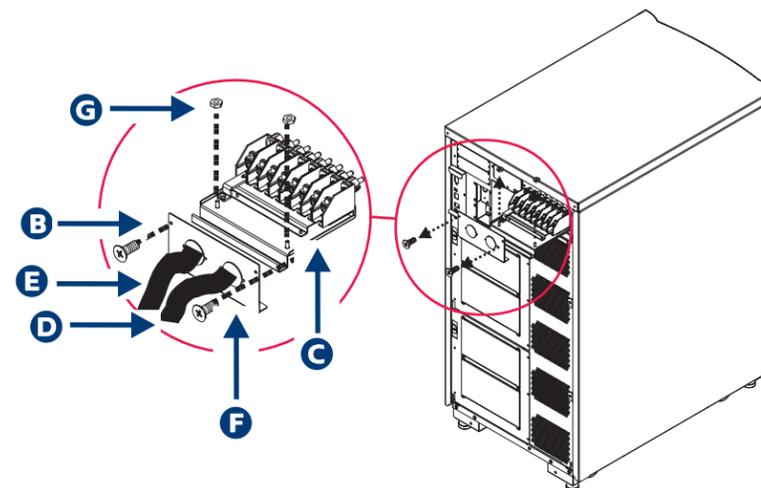
② UPSをハードワイヤ接続する



注意

- 国および地域の法規に従ってください。一般的には、ハードワイヤ接続は資格を持つ電気技術者が行う必要があります。
- ハードワイヤ接続にはすべて、ストレインリリーフが必要です。
- ハードワイヤアセンブリの穴は全部塞いでおいてください。この処置を行わなければ、人体への傷害や機器の破損を引き起こす場合があります。

- 2.1 ネジ **B** を外して、ハードワイヤアセンブリ **C** を引き出します。
- 2.2 必要に応じて入力側の導管 **D**、出力側の導管 **E** を取り付けます。
 - 必要に応じて大きな穴を開けることもできます。
 - ナット **G** を使用してストレインリリーフパネル **F** を外すと、



入力部接続				
最大負荷	方式	電圧(V/AC)	サーキットブレーカ定格*	接続
8 kVA	ハードワイヤ接続 (タワー型およびラックマウント型の標準)	200、208 または240	50 A	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 外部サーキットブレーカ ▪ #6 AWG (日本では14 mm²) ▪ 最大トルク40ポンド・インチ (4.5 N·m) ▪ 4線 (L1-L2-N-G)
16 kVA	ハードワイヤ接続 (タワー型およびラックマウント型の標準)	200、208 または240	100 A	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 外部サーキットブレーカ ▪ #3 AWG (日本では22 mm²) ▪ 最大トルク40ポンド・インチ 4.5 N·m ▪ 4線 (L1-L2-N-G)
出力側接続				
最大負荷	方式	電圧(V/AC)	サーキットブレーカ定格*	接続
8 kVA	ハードワイヤ接続 (タワー型およびラックマウント型の標準)	100/200、 120/208 または 120/240	50 A	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 外部サーキットブレーカ ▪ #6 AWG (日本では14 mm²) ▪ 最大トルク40ポンド・インチ (4.5 N·m) ▪ 4線 (L1-L2-N-G)
	出力コンセント (ラックマウント型の標準)	100/200、 120/208 または 120/240	50 A	<ul style="list-style-type: none"> § 2 L14-30R) § 4 (L5-20R)
16 kVA	ハードワイヤ接続 (タワー型およびラックマウント型の標準)	100/200、 120/208 または 120/240	90 A	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 外部サーキットブレーカ ▪ #3 AWG (日本では22 mm²) ▪ 最大トルク40ポンド・インチ 4.5 N·m ▪ 4線 (L1-L2-N-G)
	出力コンセント (ラックマウント型の標準)	100/200、 120/208 または 120/240	90 A	<ul style="list-style-type: none"> § 4 (L14-30R) § 8 (L5-20R)

*推奨

② UPS をハードワイヤ接続する(続き)

2.3 ターミナルブロック **J** に、入力ケーブル **H** および出力ケーブル **I** (必要な場合) を取り付けます。

- 導管を通してハードウェアアセンブリにワイヤ引き込みます。
- ラベル **K** に記載されているとおり、トルク40ポンドインチ (4.5 N-m) でターミナルブロックに接続します。
- ストレインリリーフパネルの使用しない穴は塞いでおいてください。

2.4 ケーブル接続をチェックして適切に設定されていることを確認します。

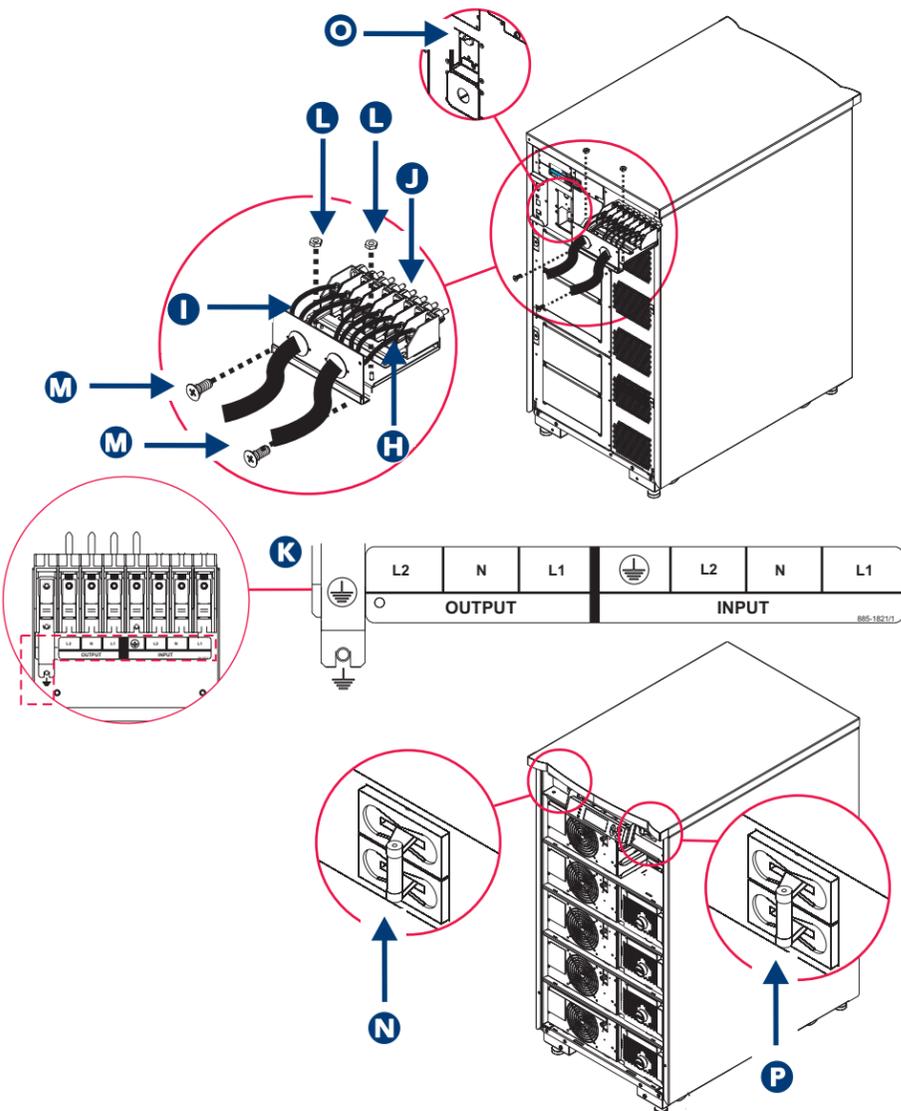
2.5 ナット **L** でストレインリリーフパネルを再度取り付けます。

2.6 付属のネジ **M** でハードウェアアセンブリを再度取り付けます。

2.7 配線をテストします。

- ユーティリティの電源、入力側サーキットブレーカ **N**、システムインネーブルスイッチ **O** をオンにします。ディスプレイの Vin の値が分岐の電圧に一致していない場合は、入力側の配線をチェックしてください。
- メンテナンスバイパススイッチ **P** をオンにして、出力側の配線をチェックします。

2.8 入力側サーキットブレーカおよびメンテナンスバイパススイッチをオフにします。



③ Remote Emergency Power Off (REPO) 回路を接続する (必要な場合)

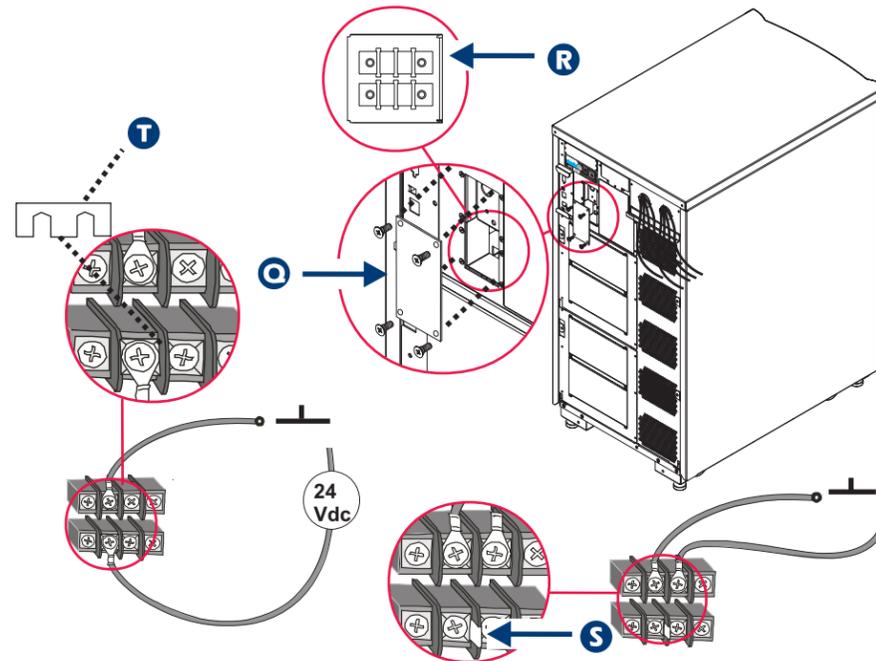


- 一般的には、Remote Emergency Power Off (REPO) スイッチの取り付けは、資格を持つ電気技術者が行う必要があります。国および地域の法規に従ってください。
- REPOの要件および安全に関する詳細については、『Symmetra LX 安全に関する注意事項および一般的な注意事項ガイド』を参照してください。

3.1 アクセスパネル **Q** を外して、回路 **R** に接続します。

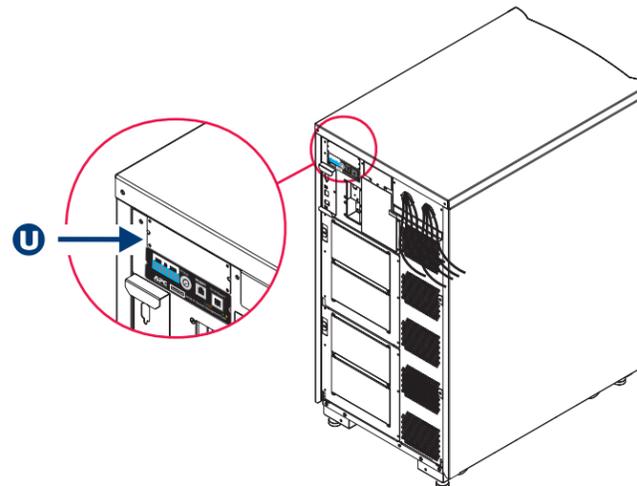
3.2 取り付けに外付けスイッチ接点を使用している場合、予め取り付けられているジャンパ **S** でREPOを次の図のように接続します。

3.3 取り付けにスイッチ接点および24 VのUPS外部電源を使用する場合、ジャンパ **T** を取り外してREPOスイッチを次の図のように接続します。



④ アクセサリカードを取り付ける (該当する場合)

構成内容に追加の管理アクセサリカードが含まれている場合、UPS背面の空のスロット **U** に取り付けます。取り付けについては、付属のマニュアルを参照してください。



⑤ パネルを取り付けてUPSに負荷機器を接続する (該当する場合)

構成内容に、オプションのPDUパネルが含まれている場合があります。PDU取り付けガイドを参照してください。



負荷機器は、PDUパネルの出力コンセントを使用してUPSに直接接続することができます。PDUパネルに接続された機器の総負荷が、PDUパネルの分岐サーキットブレーカ定格を超えないようにしてください。